



花のように“優しく 誠実に”

みのり 第95号 掲載内容

● 巻頭言	1P
● プリンちゃん落成式	2P
● プリンちゃん施設内紹介	3P
● 施設見学・取材	4P
● 福祉QC研究発表会・研修	5P
● 入職式・新人職員紹介	6P
● 収支決算・寄贈	7P
● お知らせ	8P

経営理念

私たちはみのりの精神である慈愛・奉仕・研究を基本精神とし地域・社会より愛され、認められる法人をめざし社会福祉事業の担い手として、地域・社会へ貢献します。

みのり第95号
平成29年(2017)9月21日発行

[発行者] 社会福祉法人 みのり村
[印刷] 株式会社 クリエイト

○改正 社会福祉法について思う

平成29年4月より新たに社会福祉法が改正され、ガバナンス（評議員制度等）が抜本的に見直され、企業に似かよった組織形態となった。大変活気的な事ではあるが、どうもこれを理解していくには、それ相応の勉強に努めていかなければ！今までの福祉経営とは程遠い感がある。ひとつにはまず公益性・非営利性という特徴を持った法人と明確にされたのですが、きちんと経営の体を成していかなければ、施設の収益（必要経費）が生産されないのです。

また、社会福祉充実残額も、意味不明な言葉や数値が並んで出てきて、数値を打ち込みさえすれば残額が出てきます。結果、我法人はプラスとなり喜んでよいのやら、いかなのだらうかとやきもきさせられている。この値も、他の方式で計算をすると充実残額値が、ガラッと変化してしまう。何かとても恐い事でもあり、考えさせられ

てしまう。つまり、国の打ち出す介護報酬等も、数値を少しどこかをいじれば、たちまち全体の結果値が変わってしまうのだらう。「やはり」と首をかしげてしまう。

政府や各自治体には、様々な委員会や協議会があり、それに伴い数値やデータ資料が膨大な量で打ち出され、それをまとめあげた資料が冊子となり机上に提出され、それに基づき各委員によって審議され、色々なテーマに基づく項目や、方向性が打ち出される。結果ありきの所も大きく透けて見えてくるのである。

社会福祉法人も、国や行政に要望を訴える所は訴えなければ、結果ありきの数値のデータを打ちこまれ、調整され、ややもすれば、声をあげる事のできにくい弱者に対しては、いつのまにか言葉巧みに予算が削られる結果となります。

従って各種の協議会や団体で連携を

組み、その業界の代弁者である政治家を排出し、しっかりと活動して頂かないと、今回の充実計画や監査法人を入れた事実より、法人にとって経営や運営が大変厳しい様相を呈します。改めて気を引き締め、この改正を読み込んでいきたいと思う。

平成30年4月よりのトリプル改定でもある医療や介護、そして障害者の報酬改定が実施されます。福祉団体が迷わないよう、スピード感を持ち、様々なデータを出しエビデンスに基づいた戦略を持って答申を出せば、社会福祉法人は生き残っていくであろうし、又世に必要な法人になりえるに違いないと考えます。

地域社会の方々には、社会福祉法人をあまり理解できていないと、アンケート結果が出ています。我々は、改正福祉法の意味をよく理解し、その内容に対して果敢にチャレンジして、真摯に実行に移して行かなければ道は開けないと強く感ずる昨今であります。

（理事長 大木）



法人玄関入口

みのり学園児童発達支援センター 「プリンちゃん」



感謝状贈呈



日出町長本田様よりご祝辞をいただきました

平成23年より運営してきました「プリンちゃん」は、知的や発達に障がいのあるお子様を預かり、障がいの相談を受け付けけるなど療育支援の専門化・充実化を目指してきました。保護者からの受け入れ体制拡大を求める声を受け、この度、事業の拡張を図るため建物の機能整備を行い、新築落成することができました。

好天のもと、本田日出町長、永松杵築市長をはじめ、行政、学校、福祉関係のご来賓者をお招きし、50名と多くの出席者もいただき竣工落成式が執り行われました。大木理事長から「多機能型の施設で子どもたちにとって良い環境が整いました。この施設を東部圏域の拠点として地域の要望に応え、より充実した支援をしていきたい。」と挨拶がありました。

式では、ご来賓の方々より励ましのご祝辞を賜りました事に対して、心から御礼申し上げます。

今後とも役職員一同、障がい児療育のさらなる充実・発展に取り組んで参る所存です。御支援宜しくお願い致します。

(5月27日)

祝 辞

本日は、みのり学園児童発達支援センター「プリンちゃん」の落成、誠にありがとうございます。

関係者多数のご出席の中で、式典が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

また、センターの皆様方には、日頃から障がいを抱える児童一人ひとりの個性を伸ばすとともに、創意工夫をされながら療育を行い障がい児の福祉にご尽力いただいておりますことに、敬意を表する次第です。

発達障がいの児童が大人になって社会に適応するためには、幼少期に適切な療育を受けることが大切であり、それは低年齢ほど効果的といわれております。

しかしながら、療育施設はとて少なく、全国の発達障がい児30万人のうちわずか10.7割の児童しか療育支援が受けられていないのが現状です。

このような中、当センターが落成し、日出町のみならず広く東部福祉圏域における療育環境が充実していくことは誠に喜ばしいことでございます。

日出町といたしましては、去る3月に第5次日出町総合計画を策定し、その将来像を「住むことに喜びを感じるまち」としてありますが、住民の皆さんが健やかで安らかに暮らせるまちを目指して、障がい者福祉に取り組んでまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

みのり学園児童発達支援センター「プリンちゃん」が皆様に愛される施設となりますように、そして大木理事長をはじめご来場の皆様方のご健勝を祈念申し上げます。祝いの言葉といたします。

日出町長 本田 博文

多機能型児童発達支援センター リニューアル・オープン

日出町大神のみのり学園児童発達支援センター「プリンちゃん」の新棟が完成しました。受け入れ可能な子どもの数が1.5倍に増え、知的障がいや発達障がいの子供への療育サービスと設備が拡充しました。

今回の整備により旧棟と合わせた広さが、鉄骨平屋で324平方メートルから450平方メートルとなり、定員は20人から30人へ増。装いも新たに、砂場がある園庭や遊技場、集中訓練室を加え、マンツーマンでの寄り添う療育を行なう環境づくりができました。

今後も地域の要望に応え、大分県東部圏域の障がい児療育のさらなる充実・発展に取り組んで参ります。

※多機能型事業所として、児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の事業を実施しています。



新装 児童発達支援センター「プリンちゃん」



指導訓練室



園庭



ボルダリング



集中訓練室



スヌーズレン室

※スヌーズレンは、オランダ語の「SNUFFLEN (スヌッフルン: 探索)」と「DOEZELEN (ドゥズレン: やすらぎ・くつろぎ)」という2つの単語からできた言葉です。子供たちの五感(視覚・聴覚・嗅覚・触覚など)に適度な刺激を用意し楽しめる環境が整ったお部屋です。



大分県立日出支援学校関係者 白萩園・ワークセンター「誠」見学

杵築障がい福祉部へ日出支援学校の学生・ご家族・教員の方31名がお見えになり、障がい者支援施設である白萩園の見学や障がい福祉サービス事業所ワークセンター「誠」の就労の様子をみていただきました。

支援学校の皆さまはワークセンター「誠」での6次産業を目指し、村内で栽培された野菜を加工・販売する「いち押し工房」の説明を熱心に聴かれ、「一日どのくらいパンを作るのですか」等、質問がありました。卒業後の進路の一助となればと思います。

今回の見学で、学生・ご家族・教員の皆さまから頂いたご意見を大切にし、今後の事業運営に努めて参ります。
(6月9日)



直売所「えん」で花卉販売を見学

日出町主任児童委員 児童発達支援センター「プリンちゃん」見学

日出町主任児童委員の5名の方が、みのり学園児童発達支援センター「プリンちゃん」の見学に訪れました。事業概要の説明後、新装「プリンちゃん」と総合相談支援MプラザHijiを見学、参加者からは「遊び心満載、かつ遊びながらも療育できる環境がいいですね!!」等多くの感想をいただきました。

主任児童委員の方々と意見交換ができたことは、地域との連携の大切さや地域の身近な療育機関として機能していく重要性を再認識することに繋がりました。サービスの質の向上を目指し、今後も地域の関係機関との交流を深めていきます。
(6月21日)



見学の様子

大分県高齢者福祉課来訪

大分県高齢者福祉課の方7名がユニット型特別養護老人ホーム菩提樹を訪れました。

始めに、当法人の事業内容等を担当者から説明した後、菩提樹の個室ユニットを見学され、「温かく、落ち着いた雰囲気です」との感想をいただきました。また、今年1月17日(火)に導入した介護ロボット「HAL」(2台)の使用実態も視察されました。実際にスタッフが装着し、重たいものを抱える等の実演を行ないました。今回の来訪では、高齢者福祉課の方々から質問も多々あり、有意義な意見交換を行うことができました。

今後も法人全体で介護業務の負担軽減を図りサービスの質の向上に取り組んで参ります。

※ 介護ロボット「HAL」は介護支援用の腰タイプのロボットです。生体電位信号を読み取ることで、介護者の動きをアシストし、身体的負担を軽減します。重量は約2.9kgとコンパクトで女性でも簡単に利用できます。

(4月24日)



介護ロボットHAL実演

日経ビジネス取材

65歳以降も働きたいと考える元気な高齢者が増加する中、高齢者を積極的に採用している社会福祉法人として、「日経ビジネス」(東京)より取材を受けました。

掲載は2017.9.25号。

(7月25日)



日経ビジネス 9.25発行



働いている様子を撮影

交通講話

白萩園地域交流センターにて、杵築日出警察署署員の方をお迎えし、白萩園とワークセンター「誠」のスタッフ40名が交通安全についての講習を拝聴しました。

参加者は、安全運転に関するDVDや講話を通して、脇見は事故の主な原因になっている点、夜間の車と歩行者との事故が多いため早めのライト点灯やハイビームの使い分け方を教えていただきました。

ご利用者の送迎や通院等で運転をすることが毎日あり、多数の公用車が様々な場所を走行しています。交通事故は、いつ起こるかわからないものです。交通法規を守り、常にベストな運転ができるよう体調管理に努め、「事故に遭わない、起こさない」ように、交通ルールやマナーを再確認し、

事故防止に努めます。

(7月13日)



交通講話風景

新人研修を行いました。

今年新たに迎えた新人職員8名が研修に参加しました。社会人としてのマナーや福祉職としての心構え等を学びます。OJT（日常の業務につきながら行う教育訓練）だけでなく、OFF—JT（通常の仕事を一時的に離れて行う教育訓練）にも参加していただき、福祉職員として、成長していくことを期待しています。

OFF—JTでの新人研修は1年間で6回あり、電話対応や権利擁護等の内容を行います。その他にもメンター制度等も採り入れ、新人職員の育成に励んで参ります。



グループ討議で
意見を交わす



社会人としての基本マナーを
学習

食中毒防止出前講習会の開催

白萩園地域交流センターにて、みのり村栄養士部会の白萩園感染症委員会が「食中毒防止出前講習会」を開催し、職員52名が聴講しました。

講師としてお招きした大分県東部保健所担当者から食中毒の原因や特性・調理器具の保管方法についての講演をいただき、参加者一同改めて食中毒予防の重要性を認識しました。

今後も法人全体で食中毒の未然防止に努めて参ります。

(6月24日)



県東部保健所担当者より講演

第16回 みのり村福祉QC研究発表会

村内の障がい児・者及び高齢者施設から6グループが研究成果を発表。各グループ共、数値化や図表化を図り、客観的でわかりやすい内容で、職員も熱心に聴講しました。

今後も村としてサービスの質の向上、業務の標準化を進めて参ります。

(2月21日)

最優秀賞

ワークセンター誠 【ハーフ&ハーフ】

『杵築就労部における「かぼす」ブランド計画』

～選んでいただける事業所を目指して～

第1みのり学園 【REBORN】

『リサイクル活動を通して』～繋ぎ繋がる幸せLIFE～

優秀賞

白萩園 【ハウスキーパース】

『環境整備の標準化』

～ノーマライゼーションに基づいた

白萩園利用者の方々の生活環境の改善を目指して～

みのりスマイル 【がっちりスマイル】

『工賃向上について』

～利用者の充実した生活ができる様に努めるには？～

感動賞

菩提樹 【あいユニット】

『生きることは働くこと』

～100歳からの言葉「はたらかにやあ」～

奨励賞

ホームヘルパーステーションぼだいじゅ

『昔の生活を取り戻す』

～入院前のように自分一人で料理を作れるようになりたい～



各事業所からの発表

入職式・新人職員紹介

新人職員入職式・
辞令交付式

平成29年4月3日10時30分から
新人職員入職式と辞令交付式が本
部ホールにて執り行なわれました。
理事長より各自に辞令が交付され、
「社会人として、期待と不安で一杯
でしょうが、共に頑張りましょう。」
と挨拶がありました。

今年度は8名の新人職員を迎え、
各々が配属先で社会人としてのス
タートをしました。
(4月3日)



集合写真

新人職員紹介

新年度8名の方が入職されまし
た。皆さん宜しくお願い致します。

- ①名前 ②配属先 ③長所
④最近ハマっている事



- ①松尾 芽依
②第2みのり学園
③明るく元気
④車のDIYと洗車



- ①佐藤 琴音
②本部
③負けず嫌い
④食べ歩き



- ①上野 七海
②白百合園
③最後までやり遂
げる
④熱いお風呂



- ①藤内 健人
②白萩園
③記憶力
④両親との晩酌



- ①酒井 彩
②菩提樹
③笑顔
④お菓子作り



- ①後藤 祥斗
②ワークセンター誠
③親しみ易い
④働いている先輩
方との交流



- ①有吉 美樹
②第1みのり学園
③何事にも動じな
い
④乃木坂46の動
画観賞



- ①槇原 一樹
②菩提樹
③明るさ 元気
④音楽鑑賞
ドライブ

吉田 ユリ子

八坂 律子

奥野 初子

川田 正美

堀 勇

田原 亨

鈴木 明久

評議員

伊藤 義人

渡辺 良秋

監事

河野 節二

広岡とよみ

大石 悦生

田代 重勝

大木 緑

大木 隆

理事

平成29年度 理事・
評議員が新体制で始動。

平成29年度から、理事・評議員が新体制と
なりました。この新体制は社会福祉法人制度
改革によるもので、評議員会は議決機関、理
事会は執行機関です。今回の改革のポイント
である「経営組織のガバナンス強化」や「事
業運営の透明性の向
上」、「人材育成・確保」
等にこの新体制の下、
法人全体で取り組ん
で参ります。



評議員会

平成28年度 収 支 決 算

貸借対照表の要旨 (単位:千円)	
科 目	金 額
資 産 の 部	
流動資産	1,297,342
固定資産	1,852,109
その他の固定資産	2,337,108
資産の部合計	5,486,559
負 債 の 部	
流動負債	109,491
固定負債	190,587
負債の部合計	300,078
純 資 産 の 部	
基本金	644,208
国庫補助金等特別積立金	738,561
その他の積立金	1,809,946
次期繰越活動増減差額	1,993,766
負債及び純資産の部合計	5,486,559

事業活動計算書の要旨 (単位:千円)		
科 目	金 額	
サービス活動増減	サービス活動収益	1,590,426
	サービス活動費用	1,373,448
	サービス活動増減差額	216,978
サービス活動外増減	サービス活動外収益	14,515
	サービス活動外費用	689
	サービス活動外増減差額	13,826
特別増減	特別収益	286,966
	特別費用	411,019
	特別増減差額	-124,053
当期活動増減差額		106,751
繰越活動増減差額	前期繰越活動増減差額	2,015,176
	当期末繰越活動増減差額	2,121,927
	基本金取崩	0
	その他の積立金取崩	5,000
	その他の積立金積立額	133,161
	次期繰越活動増減差額	1,993,766

資金収支計算書の要旨 (単位:千円)		
科 目	金 額	
事業活動による収支	事業活動収入	1,604,941
	事業活動支出	1,219,309
	事業活動資金収支差額	385,632
施設整備等による収支	施設整備等収入	5,508
	施設整備等支出	114,410
	施設整備等資金収支差額	-108,902
その他の活動による収支	その他の活動による収入	169,650
	その他の活動支出	306,178
	その他の活動資金収支差額	-136,528
当期資金収支差額合計		140,202
前期末支払資金残高		1,094,604
当期末支払資金残高		1,234,806

日本財団より福祉車両をいただきました。



2016年度日本財団福祉車両助成事業にて、車いす対応の軽自動車「ホンダN-BOX」を寄贈していただきました。安全運転を心掛け、ご利用者の送迎や通院などに役立てて参ります。この助成事業に、ご協力を賜りました関係者の皆様に感謝申し上げます。

車いす対応車(軽自動車)の整備:

整備車両ホンダN-BOX

事業費総額 116万6千円

助成金額 93万円 (2月13日)

安全対策、警備体制を強化

昨今、福祉施設における安全対策の見直しが求められています。保育所等の施設では、防犯カメラの設置や緊急時の警察等への連絡体制等、防犯体制の強化が行われています。みのり村でも、ご利用者を守り、安心・安全なサービスを提供するため、方策を講じました。

まず、特別養護老人ホーム菩提樹には大分県内の高齢者施設で初めて「110番非常通報装置」を導入しました。次に、白萩園に防犯カメラを設置、日出障がい福祉部でもカメラの取り付けを行います。

今回の設置が、犯罪を抑止し、警備体制の強化となり、ご利用者やそのご家族の皆様の安心感に繋がればと思います。導入することに満足せず、訓練や運用指導にも取り組んで参ります。

※110番非常通報装置: 装置のボタンを押すと、施設内の異変が警察本部へ直接伝わり、管轄の警察官が駆け付け、緊急配備を敷くことができます。事件の早期解決や被害の拡大防止に役立てることができます。

110番非常通報装置:

事業費総額 41万5千8百円

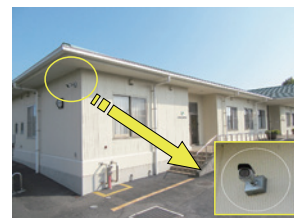
杵築市高齢者福祉施設等防犯対策強化事業費補助金額 20万7千円

防犯カメラ設置:

事業費総額 51万8千4百円

大分県社会福祉施設整備事業費補助金額 24万3千円

(4月23日)



総合福祉ケアサポートセンター みのり村

- 特別養護老人ホーム 菩提樹(個室ユニット)
- ショートステイ事業
- 菩提樹デイ「風と樹々と空と」
- ケアプランセンター ぼだいじゅ
- ホームヘルパーステーション ぼだいじゅ
- 配食サービス
- 在宅介護支援センター ぼだいじゅ
- えむほ ガーデン
- 障がい児入所施設 第1みのり学園
- 児童発達支援センター「プリンちゃん」
- 障がい者支援施設 第2みのり学園
- 障がい者支援施設 白百合園
- みのりスマイル(就労)
- 総合相談支援 M・プラザ HIJ I
- 障がい者支援施設 白萩園
- ワークセンター「誠」(就労)
- みのり村 いち押し工房
- グループホーム みのり村
- 総合相談支援 M・プラザ KITUKI
- みのり村介護・福祉タクシー
- 菩提樹まちかど交流サロン「福ろう」
- 認知症カフェ ふくろう茶屋

**障がい児から就労、そして
老後までの安心トータルサポート**

編集後記

朝晩めっきり涼しくなり、日中との寒暖差が大きく秋の装いとなって参りました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。皆様、どの「みのりの秋」を満喫されていますか。

広報紙95号からメンバーを一新し、編集作業をして参りました。慣れない作業の中、発行にこぎつけることができました。

これから色々な内容を皆様にわかりやすくお伝えできるよう、努力して参ります。

今後とも宜しくお願い申し上げます。
(広報担当)



編集・発行／本部総務人事課

〒873-0013
大分県杵築市大字日野1921の7
TEL 0978-66-1200
FAX 0978-62-2974
URL <http://www.minorimura.or.jp/>
メール info@minorimura.or.jp

※写真掲載等には、
ご本人の了解を得ております。



黄金色に輝く稲穂

今年は猛暑や台風の影響で稲の成長が心配されましたが、稲穂がたわわに実り一面黄金色に輝きました。
収穫したお米を口にするのが楽しみです。



整備された榊場

椎茸榊場の間伐

椎茸栽培には「榊場」と「榊木(原木)」と「菌(タネコマ)」が必要となります。畑で育つ野菜に例えるなら、榊場は畑、榊木(原木)は土、菌はタネとなります。この度、その椎茸の榊場を整備しました。旨味と栄養がたっぷり詰まった、タシにも料理にも使える美味しい原木椎茸を育てていきます。

(3月29日)

第三者評価を受審 特別養護老人ホーム菩提樹

大分市内の第三者機関「福祉サービス評価センターおおいた」の第三者評価を7年ぶりに再度受審しました。

当日は、「福祉サービスの基本方針と組織の運営管理・安全管理・適切な福祉サービスの実施」の4点について調査を受け、「経営理念に基づいた基本方針が実践されている。」等の評価を受けました。同時に、日々の業務の見直しにも繋がりました。

評価結果を真摯に受け、組織全体の質の向上を図って参ります。

※結果については、独立行政法人福祉医療機構ホームページにて公開しております。

(6月19日)



平成28年度 資格取得者一覧

所 属	氏 名	資格名
菩 提 樹	鈴 木 穂	介護福祉士
菩 提 樹	田 中 久美子	介護福祉士
菩 提 樹	稲 吉 久 美	介護福祉士
菩 提 樹	伊 藤 紗 希	介護支援専門員
白 萩 園	後 藤 晴 美	精神保健福祉士
白 萩 園	佐 藤 あゆみ	介護福祉士
白 萩 園	田 中 和 紀	介護福祉士
白 萩 園	藤 澤 麻莉子	介護福祉士
第1みのり学園	川 井 未紗希	介護福祉士
第1みのり学園	木 藤 沙 穂	介護福祉士

生涯健康県おおいた21
推進協力事業所に
認定されました。

